

# 「ウォーターフットプリント」国際規格に

## グリーンフォーラム21 資源・循環技術委員



### 量と質は分けて評価

#### 意見交換

委員 工場の取水時に水量をカウントするわけだが、生産での使用後、排水した水もカウントすると、同じ水でも2度カウントすることにならないのか。

小林氏 川から取水した量と同じ量を使用後に川に戻すと、基本的に水は消費しない。同じ水源に同量を戻すので、その水源に対する影響はないからだ。量について言えばそうだが、水の質については違う。汚れた水を排水すると影響があるので、量とは違う視点で評価する。ダブルカウントと言えるかもしれないが、量と質は分けて考える。

委員 では取水、排水の質はどう評価するのか。

小林氏 基準は出ていない。環境基準のようなもので一律に決めるのが現実的と思う。

委員 対象範囲は温室効果ガス算定期準のスコープ1、2(工場や事務所など自社での使用に伴う水量)なのかな。



#### 何のためにやるのかが大切

#### 委員長総括

質疑のなかで、ウォーターフットプリントという考え方がどの程度決まっていて、逆に、どんな問題があるかというのが、割と浮き彫りになつた気がする。まぎりなりにも国際標準としてISOで合意されたということは、非常に大きな意味を持つている。水どのようなものに注目を集めたと

いうことが一つの大きな成

果だと思う。

国際的用語が統

一貫性も大体では決まつ

て、概念も大体では決まつ

て、何のためにやるのか

の手段で、何のためにやる

のかというのをはっきりさ

いえる。

たゞ、あくまでもウォ

ーターフットプリントは一

つの手段で、何のためにやる

のかというのをはっきりさ

いえる。